

## 第16回思川開発事業生態系保全委員会 議事要旨

日 時：平成28年3月10日（金） 13:35～16:00

場 所：栃木県立宇都宮産業展示館（マロニエプラザ）大会議室

出席者：三島次郎委員長、酒井豊三郎委員、櫻井正美委員、杉田勇治委員、  
高橋滋委員、矢澤高史委員（敬称略、委員五十音順）

議 事：

### 1. 思川開発事業における環境保全対策

#### （1）環境保全対策の基本的な考え方

事務局より、動植物に対する環境保全対策、環境保全地の整備について説明し、了解された。

#### （2）オオタカ営巣中心域近傍での工事における環境保全対策の基本的な考え方

事務局より、オオタカ営巣中心域近傍での工事における環境保全対策等について説明し、了解された。

#### （3）ムカシヤンマ幼虫の移殖に向けた環境整備の考え方

事務局より、ムカシヤンマ幼虫の移殖に向けた流れ等について説明し、了解された。了解に際し、以下のコメントがあった。

- ・コケの仮根が挿んでいるシルトや粘土の量は、巣を創出できる環境に関係していることも考えられるため、コケの状況も生息環境要因として調査を行った方がよい。
- ・幼虫が確認されなくなったC地点と現在生息している地点での生息環境要因を比較することにより、幼虫の生息環境として適さない条件が明らかになる可能性がある。

#### （4）道路工事等における環境保全対策

事務局より、道路工事等における環境保全対策について説明し、了解された。

### 2. オオタカのモニタリング調査

事務局より、オオタカのモニタリング調査結果について説明し、了解された。了解に際し、以下のコメントがあった。

- ・間伐区は倒木の影響を大きく受けているが、オオタカが生息し続けるような良い環境をつくる観点から、今後もモニタリングを継続し情報を蓄積することが重要である。

### 3. ムカシヤンマのモニタリング調査

事務局より、ムカシヤンマのモニタリング調査結果について説明し、了解された。了解に際し、以下のコメントがあった。

- ・ムカシヤンマは人の手が入った崖を利用していることが多い。

### 4. 貴重植物のモニタリング調査

事務局より、貴重植物のモニタリング調査結果について説明し、了解された。了解に際し、以下のコメントがあった。

・オオヒキヨモギは半寄生植物で移植が難しい種であるため、いくつかの移植方法を試みるとよい。

5. 環境保全地のモニタリング調査

事務局より、環境保全地のモニタリング調査結果について説明し、了解された。

6. その他報告事項

事務局より、クマタカのモニタリング調査結果について説明し、了解された。

以上の指導・助言を踏まえ、事務局から説明のあった環境保全への取り組みを引き続き進めていくことを確認した。

以 上